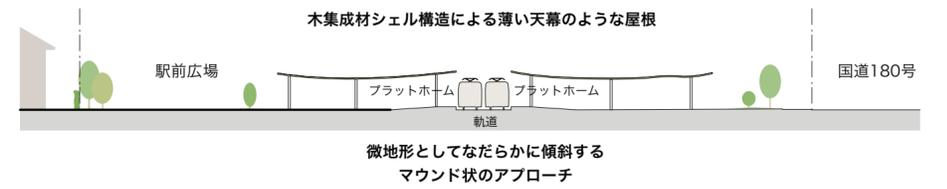
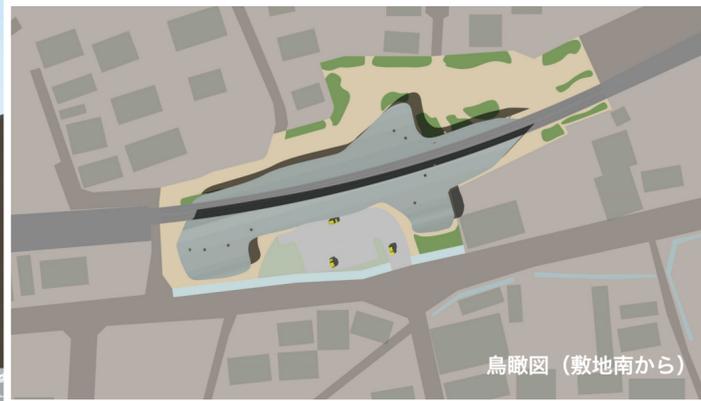
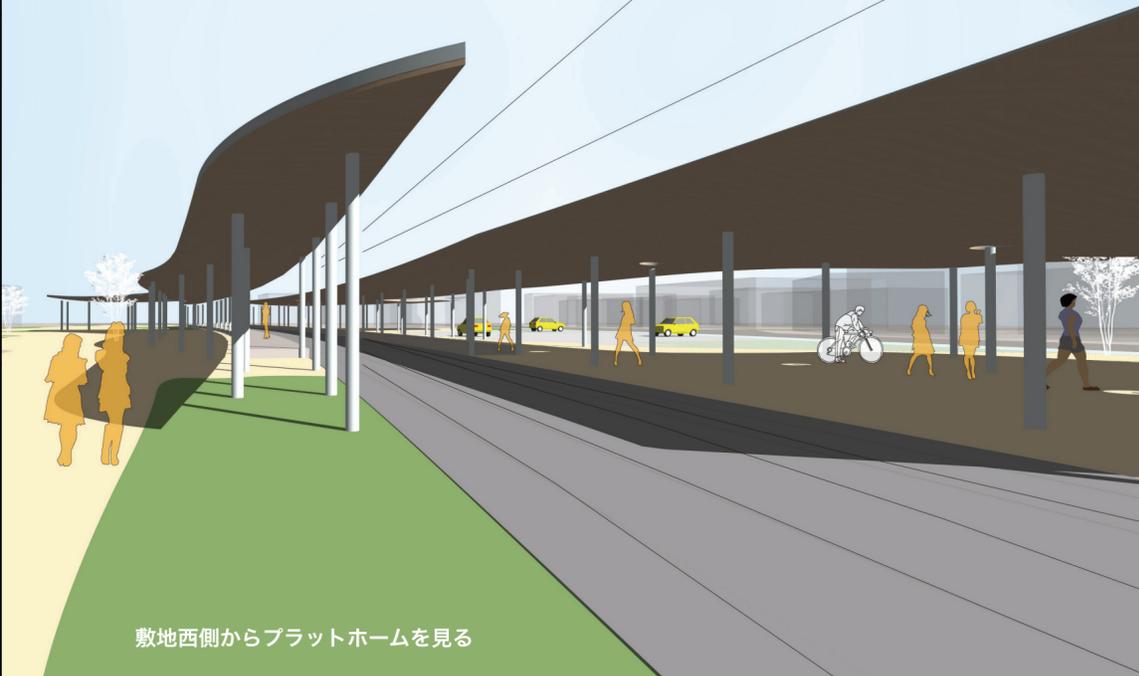


天幕のある丘



断面図 S: 1/500

天幕のある丘

わたしたちは「天幕のある丘」というテーマをもって設計にあたりました。

スケールに寄り添う

LRTのもつスケール感は、街並みや人の歩みに親和性が高いことから、駅のありかたも、これまでのような独立性の高いものから、周辺に馴染んでゆく空間であることが求められます。ここでは、駅の周辺を何かに利用するのではなく、あたかも「既にそこにあった広場の中にLRTが乗り入れる」ような発想で、駅周辺エリアを捉えます。また、すでに設けられているサイクリングロードと連携した、自転車を活用したネットワークの要素とします。

かたちに寄り添う

敷地全体を、LRTプラットフォームを頂点とするなだらかな「丘」とし、敷地のどこからでもLRTにアクセスできるようにします。主に北側は地域住民にとって日常的な、南側は観光客にとって起点となる広場となります。既存の道に相当する部分は、最低限の通過交通を処理できる歩車共存的エリアと、広場の周囲には緩衝帯となる植栽を設け、隣接する住宅に配慮しています。

人々に寄り添う天幕

丘のある広場には、薄い木製の「天幕」がかかります。日常的な利用のほか、定期的な朝市や季節のイベントなどを開催する場には、テンポラリーなイメージをもつ「天幕」がふさわしく、駅舎としてのシェルター以上の意味を持つ豊かな空間が生まれます。

歴史に寄り添う

さまざまな歴史資源が日常生活の中に点在するこの地域には、自転車や徒歩での、ゆっくりとした移動が似合います。既存のサイクリングロードからLRT各駅への経路上にある空き物件をリノベーションし、ネットワークの拠点に加えます。移動の途中で立ち止まることで、街を楽しむことができます。

「天幕のある丘」がつながり人々が出会うことで、より豊かな「吉備回廊」となるでしょう。



配置平面図 S: 1/500